

【著者紹介】

森平崇文 MORIDAIIRA Takafumi

立教大学外国語教育研究センター
中国演劇、上海史

『滑稽戯、戯単、漫画——滑稽戯『活菩薩』と大公滑稽劇団を例に』、中里見敬編『中国戯単の世界：『戯単、劇場と20世紀前半の東アジア演劇』学術シンポジウム論文集』花書院、2021年／『もう一つの『良友』——梁得所と画報『大衆』について』、孫安石・菊池敏夫・中村みどり編『上海モダン 『良友』画報の世界』勉誠出版、2018年、『社会主義的改造下の上海演劇』研文出版、2015年

三澤真美恵 MISAWA Mamie

日本大学文学部中国語中国文学学科
台湾史・華語圏映画研究

『殖民地下の銀幕——台湾総督府電影政策之研究1895-1942年』台北：前衛出版社、2001年／『「帝国」と「祖国」のはざま——植民地期台湾映画人の交渉と越境』東京：岩波書店、2010年／編著『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』東京：東京大学出版会・出版協力：国立台湾歴史博物館、2017年。

北村洋 KITAMURA Hiroshi

ウィリアム・アンド・メアリー大学歴史学部
アメリカ外交史・文化史・映画史

Orientalism: MGM's Teahouse and U.S.-Japanese Relations in the 1950s," *Diplomatic History* 44:2 (April 2020), 265-288／"Frontiers of Nostalgia: The Japanese Western and the Postwar Era," Hideaki Fujiki and Alastair Phillips, eds., *The Japanese Cinema Book* (London: British Film Institute, 2020), 518-529

蘇涛 SU Tao

文学院准教授
中華圏映画史、映画批評研究

『浮城北望：重绘战后香港电影』（2004、北京大学出版社）、『电影南渡：“南下影人”与战后香港电影（1946-1966）』（2020、北京大学出版社）、『顺流与逆流：重写香港电影史』（傅葆石と合編、2020年、北京大学出版社）ほか

陳悦 CHEN Yue

中国・東南大学芸術学院講師
中華圏映画批評、ジェンダー研究

『李安の華語映画における視線のジェンダー・ポリティクス』（名古屋大学博士学位論文、2020年）／翻訳に孟悦著『氣候変動時代における経済の主役——環境人文学の視点からの読解』（『JunCture 超域的日本文化研究』、2021年3月）ほか

イ・ヒャンジン LEE Hyangjin

立教大学異文化コミュニケーション学部
Film Studies, Cultural Sociology

2018『コリアン・シネマ：北朝鮮、韓国、トランスナショナル』（Korean Cinema: North and South, the Transnational.）Tokyo: Misuzu.／2008『韓流の社会学：ファンダム、家族、異文化交流』（*Sociology of Korean Wave: Fandom, Family and Multiculturalism*）. Tokyo: Iwanami.／2000 *Contemporary Korean Cinema: Identity, Culture and Politics*. Manchester: Manchester University Press.

高橋伸夫 TAKAHASHI Nobuo

立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科
異文化コミュニケーション専攻・博士後期課程

河西秀哉 KAWANISHI Hideya

名古屋大学大学院人文学研究科
准教授、日本近現代史

『うたごえの戦後史』（人文書院、2016年）、『近代天皇制から象徴天皇制へ』（吉田書店、2018年）、『平成の天皇と戦後日本』（人文書院、2019年）

山本昭宏 YAMAMOTO Akihiro

神戸市外国語大学
メディア文化史

『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中央公論新社、2021年／『大江健三郎とその時代：戦後に選ばれた小説家』人文書院、2019年／『核エネルギー言説の戦後史 1945～1960：「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院、2012年

吉原万里矢 YOSHIHARA Mariya

名古屋大学人文学研究科日本文学・博士候補研究員
日本近代文学

「昭和初期の北国克衛における建築／人体の越境：『GE.GJMGJGAM. PRRR.GJMGEM』、『白のアルバム』を中心に」（『名古屋大学人文学フォーラム』3号、33-42、2020.3）／「機械時代の川端康成におけるガラス化する身体—『青海黒い海』『針と硝子と霧』『水晶幻想』をめぐる—」（『名古屋大学国語国文学会』113号、76-90、2020.11）／「堀辰雄におけるモダニズムとテクノロジー—「手のつけられない子供」他初期短編をめぐる—」（『名古屋大学人文学フォーラム』4号、157-168、2021.3）

金子聖奈 KANEKO Sena

早稲田大学大学院文学研究科・博士後期課程／日本学術振興会特別研究員DC1

日本近現代文学

「反語をよぶ〈フィリピン〉と「移民」——大石千代子「山に生きる人々」論」、『績』32号、2020年3月／「織田作之助「わが町」論——死者をうつす「南十字星」」、2020年度早稲田大学国文学会秋季大会、於オンライン、2020年12月／「死者を想起する〈フィリピン〉の「地図」——大岡昇平「ミンドロ島ふたたび」をめぐって」、『日本近代文学』第106集、2022年5月

佐々木裕子 SASAKI Yuko

東京大学大学院総合文化研究科・博士課程

杏林大学、茨城県立医療大学・非常勤講師

フェミニズム研究、クィア研究、レスビアン研究

「『ピンクの肉が覗いている』——「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」におけるらいてうと紅吉の身体的な感応について」『女性学』vol.28、2021年3月／「『クィア』な知の営み——周縁から規範を徹底的に問い直す」、新教出版社編集部編『統べるもの／叛くもの——統治とキリスト教の異同をめぐって』新教出版社、2019年／「孤独と悲哀のエネルギー——「幸せ」の規範へのクィアな／の抵抗と生存のために」『現代思想』vol.47-3、2019年3月臨時増刊号

齋藤寛子 SAITO Hiroko

ハワイ大学マノア校大学院アメリカ研究科・博士課程

日系アメリカ文学

「野口米次郎の *The American Diary of a Japanese Girl* におけるアメリカ帝国主義批判」アメリカ学会第55回年次大会、オンライン・慶応義塾大学、2021年／「沈黙の罪と忘却の罪——ヒサエ・ヤマモトの「ウィルシャー通りのバス」における人種問題」『関東英文学研究』10号、2018年／“Story of an Issei Father, but Really the Story of a Human Being: Reading ‘Las Vegas Charley’ beyond the racial perspective”『早稲田大学大学院文学研究科紀要』63号、2018年

霜山博也 SHIMOYAMA Hiroya

名古屋芸術大学、豊橋創造大学・非常勤講師

西洋哲学、美学、情報創造論

“The ‘Diagram’ as the Audio-Visual Image”, 2019 Nicograph International (Nicolnt), IEEE, 2019.／“Auto-Image”による情報化時代の自己イメージ批評——肖像から自撮り、フェイクニュース、AIへ——」、『社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 26』、2020年／「言語とイメージの「ウィルスの転回」——情報の感染から身体を守る別の生活様式——」、『社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 27』、2021年

藤木秀朗 FUJIKI Hideaki

名古屋大学大学院人文学研究科

映像学

Making Audiences: A Social History of Japanese Cinema and Media, Oxford University Press, 2022 (『映画観客とは何者か——メディアと社会主体の近現代史』名古屋大学出版会、2019年の改訂英語版)／*Making Personas: Transnational Film Stardom in Modern Japan*. Harvard University Asia Center, 2013 (『増殖するペルソナ——映画スターダムの成立と日本近代』名古屋大学出版会、2007年の改訂英語版)／*The Japanese Cinema Book*, co-edited with Alastair Phillips, British Film Institute, 2020 ほか

呂輝菲 LYU Huifei

名古屋大学大学院人文学研究科・博士後期課程

文化動態学

「曼陀『滑稽小説 女学生旅行記』における女学生描写：明治日本の『滑稽女学生旅行』との比較を中心に」、『野草』第105号、2020年／「末広鉄腸『啞の旅行』の中国語訳における妓女描写——20世紀初頭の中国知識人の女性観の考察」、日本比較文学学会第83回全国大会、オンライン、2021年6月

陳奕汎 CHEN Yifan

名古屋大学大学院人文学研究科・博士後期課程

日本近現代文学

翻訳に、曾品滄・陳玉箴『「菜譜」にみる東アジアの交流：植民地台湾のフードスケープを広げる』(『JunCture 超域的日本文化研究』11号、2020年)／口頭発表に、「阿部定とその暴力の変奏——第三次阿部定ブームを中心に」、東アジアと同時代日本語文学フォーラム次世代フォーラム、オンライン、2021年10月

王馨怡 WANG Xinyi

名古屋大学大学院人文科学研究科・映像学博士後期課程

東アジアの現代映像作品における障がい者

“Complicating the Boundary Between Disability and Non-disability: *Pure White* (2017) and *Coffee and Pencil* (2011)”, 『越境文化研究イニシアティブ論集』、大阪大学、第4集、pp.51–67、2021年3月(査読有)／「身体と情動：現代日本映画における障がい者表象」、名古屋大学大学院人文学研究科附属超域文化社会センター主催国際シンポジウム「メディア化された身体／引き裂かれた表象——東アジア冷戦文化の政治性」、名古屋大学、2021年1月